

書字に関する調査をもとにした国語科書写における 用筆についての一考察 (1)

衣川 彰人

国語教育講座

A Study on the Handwriting in Japanese Language Penmanship Based on Survey on Writing Characters (1)

Akihito KINUKAWA

Department of Japanese Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

はじめに

平成29年3月31日に、新たな学習指導要領が告示された。今回の改訂では、「知識の理解の質を高め資質・能力を育む」ために、全教科において、記載事項が「①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等③学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。その中で、書写に関する事項は、「2内容」の〔知識及び技能〕の「(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する」に位置づけられることになった。小学校においては、文字を構成する要素である「点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと」が重要視され、低学年においても、「水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなど、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な指導を工夫することが望ましい」とされている。こうした、点画の指導について考えていくためには、まず、学習者が点画についてどのように捉えているかを知ったうえで、さまざまな工夫をしていくことが必要である。そこで、大学で書写教育について学ぶ学生が、点画をどのように書いているのか、また、毛筆で書く際と硬筆で書く際の意識に違いはあるのかについて調査するため、動画撮影と書字に関するアンケート調査を行った。今回は、その中から、点画を書く際の意識について分析しながら、書字傾向について探っていきたいと思う。

1. 書字に関する調査の実施について

今回の調査は、今後の書写書道教員の養成における課題と方策を見出す中でも、特に国語科「書写」における用筆指導の在り方を考えるために、書字に関する意識と用筆の傾向についての基礎資料を作成することを目的として実施したものである。

(1) 調査対象

本調査は、国語（書写を中心とする）の免許取得のために開講している「書道演習Ⅰ～Ⅳ」を履修する学生を対象として実施した。今回の調査では、書道演習Ⅰ～Ⅳの受講生の中から134人の協力を得ることができた。

なお、本学では、書道演習の開講にあたり、受講生の実技経験年数や書写書道への興味関心を加味して上級・中級・初級の3つのクラス編成を行い、1年後期より3年前期までの2年間に渡って書写の理論と実技を扱う授業を開設している。そのため、調査を実施した授業や、クラス編成により、年齢や実技レベルなどの違いがあり、調査の結果には、そうした点からの影響が多少あることも考えられる。調査を行った授業の開設時期と実技レベルおよび調査協力者数は下表に示したとおりである。

	開設学年・学期	クラス	男子	女子	合計
書道演習Ⅰ	1年・後期	中級	18	31	49
書道演習Ⅱ	2年・前期	上級	8	24	32
書道演習Ⅲ	2年・後期	上級	4	8	12
書道演習Ⅲ	2年・後期	中級	5	4	9
書道演習Ⅳ	3年・前期	中級	9	23	32
		合 計	44	90	134

(2) 調査内容と方法

今回の調査では、基本点画を毛筆で書く際の運筆を動画撮影するとともに、「用筆に関する調査アンケート」を実施した。運筆の調査は、楷書の基本点画の9種（横画・縦画・転折・左払い・右払い・右上払い・点・そり・曲がり）をそれぞれ半紙に書いてもらい、その際の穂先の動きをビデオで撮影し動画サンプルとした。また、動画撮影に協力してもらった者に、書字や用筆に関する次の4項目について、選択式によるものに自由記述を加えた形式で回答してもらった。

①書字や日常生活における利き手

②基本点画についての意識

③毛筆・硬筆・その他の筆記用具の使用

④縦書きと横書きの使い分けとその割合

点画を書く際の運筆の様子を撮影した動画と照らし合わせながら、点画の書き方の傾向とその指導法について考えていくために、まず、これらの4項目の中から、「②基本点画についての意識」の分析をしていきたいと思う。なお、①③④の3項目に関する分析については別稿に譲りたいと思う。

2. アンケート調査の結果とその分析

(1) アンケート調査からみた基本点画への意識とその分析

①基本点画全体を通してみられる意識と傾向

漢字の楷書においては、さまざまな基本点画が組み合わせられることによって字体が形成されることになる。正しく漢字を書くためには、その漢字を構成する要素となる基本点画の一つひとつを誤りなく書くことは必要不可欠なことである。それぞれの点画は、本来、学習指導要領に「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること」とあるように、毛筆の用筆法がもととなり、硬筆の書字の際にも、同様な用

筆法で書くことが出来るよう学んでいくことが大切である。しかし、毛筆と硬筆では、用いる筆記用具や書かれる文字のサイズにも違いがあるなど、両者間の隔たりが大きいこともあり、その用筆法は関連するどころか、分離したものとなってしまうのが実状である。ここでは、基本点画を書く際に、どのような書字意識が抱かれているか、毛筆と硬筆といった筆記用具の違いによる差異はどれ程あるのかを探ってみた。

漢字を構成する基本点画である「横画・縦画・転折・左払い・右払い・右上払い・点・そり・曲がり」の9種それぞれについて、毛筆と硬筆で書く場合での意識について「とても書きやすい・書きやすい・普通・書きにくい・とても書きにくい」の5段階で回答してもらった。また、それぞれの点画を書く際に、思うことや気を付けていることについて自由記述してもらった。9種の基本点画について毛筆、硬筆で書く際の意識についてまとめたのが下表である。

基本点画全体		とても書きやすい	書きやすい	普通	書きにくい	とても書きにくい
横画	毛筆	16.4%	36.6%	38.1%	7.5%	1.5%
	硬筆	17.9%	33.6%	43.3%	3.7%	1.5%
縦画	毛筆	5.2%	11.2%	30.6%	47.8%	5.2%
	硬筆	10.4%	35.1%	51.5%	3.0%	0.0%
転折	毛筆	6.0%	27.1%	36.8%	25.6%	3.8%
	硬筆	8.3%	33.3%	53.0%	5.3%	0.0%
左払	毛筆	6.0%	34.6%	34.6%	20.3%	4.5%
	硬筆	9.1%	31.8%	49.2%	9.1%	0.8%
右払	毛筆	3.0%	23.9%	34.3%	29.1%	9.7%
	硬筆	6.8%	24.8%	54.1%	12.8%	1.5%
右上払	毛筆	0.7%	22.4%	43.3%	29.9%	2.2%
	硬筆	6.7%	25.4%	61.9%	4.5%	0.0%
点	毛筆	6.0%	23.3%	38.3%	26.3%	5.3%
	硬筆	9.8%	23.3%	59.4%	6.8%	0.8%
そり	毛筆	5.2%	23.1%	36.6%	32.8%	2.2%
	硬筆	7.5%	26.3%	57.1%	7.5%	1.5%
曲がり	毛筆	3.7%	14.2%	42.5%	36.6%	3.0%
	硬筆	7.6%	23.5%	60.6%	8.3%	0.0%

この表の数値は、男子学生と女子学生を併せた回答者数をもとに算出したものである。性別による差異などの特徴が見られるものについては、それぞれの点画ごとの分析の際に改めて述べることにしたい。

なお、これ以降、それぞれの点画への意識に関する分析は、特別な場合を除いて、

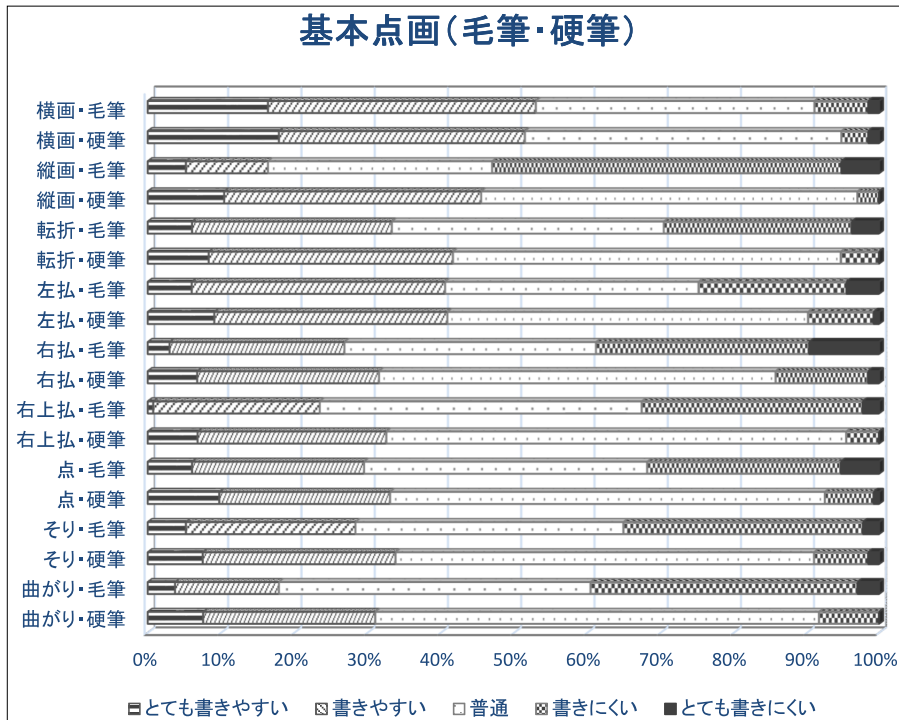
書きやすさ……「とても書きやすい」「書きやすい」を合算した数値

書きにくさ……「とても書きにくい」「書きにくい」を合算した数値

をもとに考えていきたいと思う。基本点画全体の意識についてまとめた上の表をグラフ化すると次頁の図のようになる。

これらの結果から9種の基本点画への意識を見てみると、大方、硬筆より毛筆の方が書きにくいという意識が持たれていることが分かる。ただ、そうした中でも、毛筆と硬筆で書きやすさや書きにくさといった意識がほとんど変わらないものは「横画」であった。これに対して、毛筆と硬筆での意識が大きく違うものは「縦画」で、毛筆では、約53%もの者が書きにくいと感じているにもかかわらず、硬筆で書く際になると逆に約45%の者が書きやすいと感じている。硬筆での書きにくさを感じている者は3%しかなく、その割合も

「書きにくい」への回答があったのみで「とても書きにくい」と回答した者は全くなかった。このように、「縦画」への意識は毛筆と硬筆で大きな差が見られる。また「曲がり、右上払い、点、転折」の4つの画においても同様に、毛筆と硬筆での差が大きい傾向にある。この4つの画においても、毛筆では30%程度の者が書きにくさを感じているのに対して、硬筆では5~8%程度に留まっており、「点」以外の「曲がり、右上払い、転折」では、「縦画」と同様に、「とても書きにくい」という回答をしたものは全くなかったところも興味深いところといえよう。



そこで、今度は、もう一度これらを毛筆と硬筆に分けて見てみると、毛筆で書く際に、最も書きにくいとされているのは、「縦画」(約53%)であった。それに次いで「曲がり」と「右払い」が、それぞれ約39%の者が書きにくいと感じているという状況であった。ただし、「右払い」においては、約27%の者が「書きやすい」と感じているとの回答もしていることから、書きやすさと書きにくさのどちらの傾向も見られ、個々での感じ方が分かれているようである。

硬筆においては、「右払い」が最も書きにくいと感じられているようであるが、その割合は約14%しかなく、「右払い」以外の点画においては3~9%とさらに低い。

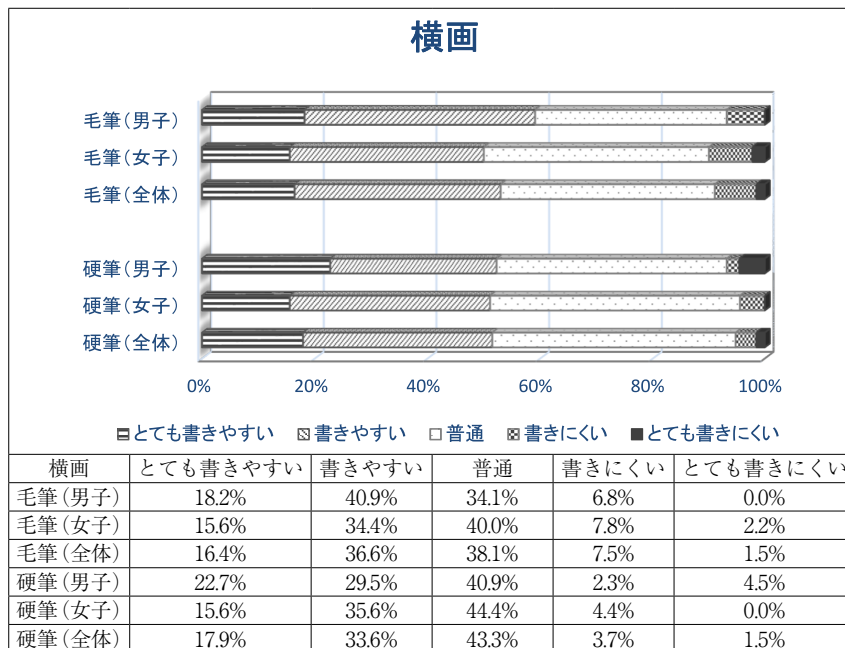
硬筆では、書きやすさの方が優勢のようで、「横画」の約51%を最高に、「縦画」が約45%、「転折」と「左払い」が約41%、その他の5種の点画においても30%以上の者が書きやすいという項目(「とても書きやすい」と「書きやすい」)に回答している。こうした結果から見ると、毛筆とは対照的に、あまり苦手意識が持たれていないことが分かる。

次からは、それぞれの点画について、自由記述してもらった内容も踏まえながら、9種の基本点画に対する意識についてもう少し詳しく分析していきたいと思う。

②それぞれの基本点画にみられる意識と傾向

ア、横画

前述のとおり、横画を書く際の意識には毛筆と硬筆での差異がほとんど見られない。しかし、毛筆においては女子の方が、硬筆では男子の方が、若干ずつではあるが、書きにくさを感じているという傾向にあるようだ。点画を書く際に、思うことや気を付けていることについて自由記述してもらった内容を見てみると、下記のような記述が多く見られた。



〈毛筆〉

- ・ 入りと止めを一番意識して書く。
- ・ 始筆の入れ方や終筆の形。少し右上がりに書く。
- ・ 右上がりだとより書きやすいけれど、その時は右上がりすぎて文字にしては不格好なので、抑えられるように気を付けている。中が細い(速い)と書きやすい。

〈硬筆〉

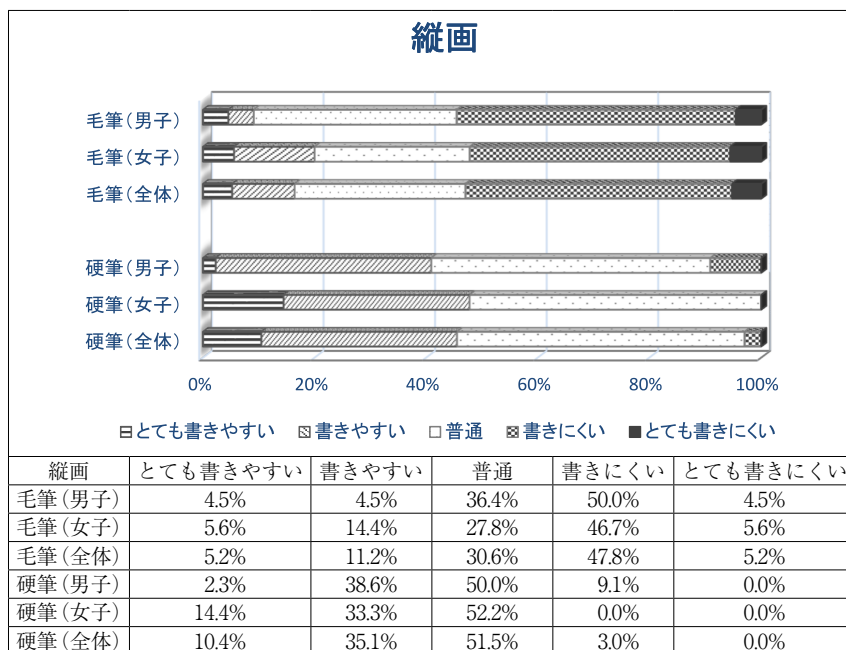
- ・ 毛筆と同じく、右上がり、平行になるようにしている。
- ・ 右上がりになりすぎないように気をつける。

横画を毛筆で書く際は、始筆と終筆部への意識は高いようだが、「毛先がまっすぐ同じラインをとるようにしている」というような送筆部での穂先の動きについての記述は一人しかなかった。他には、「とめがむずかしい」といった意見もあるところからすると、適切に始筆から終筆まで、穂先が画の上部を移行するという意識をもって運筆していないために、終筆部での「止め」がしづらくなっているのではないかとの考え方が出来る。

硬筆で書く際については、右上がりに書くことを意識していることに関する記述がほとんどで、穂先の動きなどの細かな点への特別な注意はされていないようである。

イ、縦画

縦画は、毛筆では書きにくい、硬筆では書きやすいと捉えられている。毛筆と硬筆では、真逆の意識がもたれているようである。こうした傾向は、男子・女子ともに、同様に見られる。グラフから見る限りでは、硬筆での意識について男子学生の約9%が書きにくさを感じているのに対して、女子学生は0%と全く書きにくさを感じておらず、性別での違いがあるように思われる。しかし、自由記述のコメントを見ると、女子の中にも「直線を書くのが難しい」という声もあり、数値だけでは一概に考えることが出来ず、女子にも苦手意識をもつ者はあるようである。男子と女子ともに自由記述の中に多く見られるのは、



〈毛筆〉

- ・真っ直ぐ書くよう気をつけてもなぜかなめになる。
- ・真つすぐ下すときに斜めになったり、ふれたりして通った線が書けない。
- ・曲がってしまう。とめ方が難しい。
- ・まっすぐに引けない気がしていつもよろよろして書きにくく感じる。太さもまちまちになるし、終筆もよくわからない。

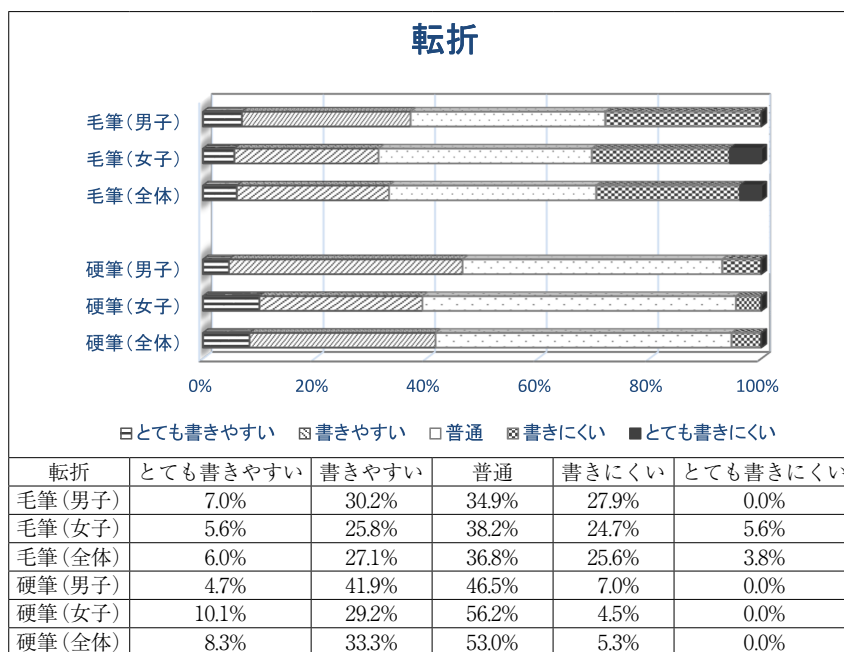
〈硬筆〉

- ・なめにならないように気をつける。
- ・毛筆より、斜めになるとバランスが悪くなる。
- ・毛筆より真っ直ぐ書ける。
- ・真っ直ぐ書きやすい。
- ・まっすぐおろすだけなので、何も思いません。

といった意見である。毛筆・硬筆のどちらにおいても、線が傾かないように注意している点は共通である。にもかかわらず、毛筆と硬筆での意識の違いが大きいのは、毛筆で書く場合は、「手や指を体から遠くに伸ばすことに違和感がある」が、硬筆の際は、「毛筆より

も遠くに伸ばさないため、特に違和感はない」との意見があるほか、硬筆では「指を動かすだけなので楽」とか、「小回りが効くためゆがみにくい」といった具合に、毛筆での書きにくさを強く感じているのに比して、硬筆ではそれほど強く書きにくさを感じていないということが影響しているようである。今回の調査結果からすれば、縦画を書く際には、線の傾きなどの不安定さばかりを気にすることに意識が向いてしまい、始筆から送筆、そして終筆へとといった運筆への意識はあまり向けられていないようである。毛筆での適切な用筆法について、十分な理解がされていないように見受けられるところもあり、そのため、毛筆の用筆法を硬筆へと活かすことへ結び付けられないまま書いている者が多いのではないだろうか。

ウ、転折



ここでの転折は、横画から縦画へと書き進める複合画についての調査である。横画は書きやすく、縦画は書きにくいという感じをもたれていることは前述のとおりであるが、これらが連続して書かれる転折の用筆に関しては、毛筆では約30%（性別で見ると男子学生27.9%、女子学生30.3%）の者が書きにくさを感じているのに対して、硬筆の場合は、書きにくさを感じている者が、約5%（男子学生7%、女子学生4.5%）と少なめである。それぞれの自由記述を見てみると、

〈毛筆〉

- ・折れるときに筆を一度止めること。
- ・曲がるところで一度止まる。

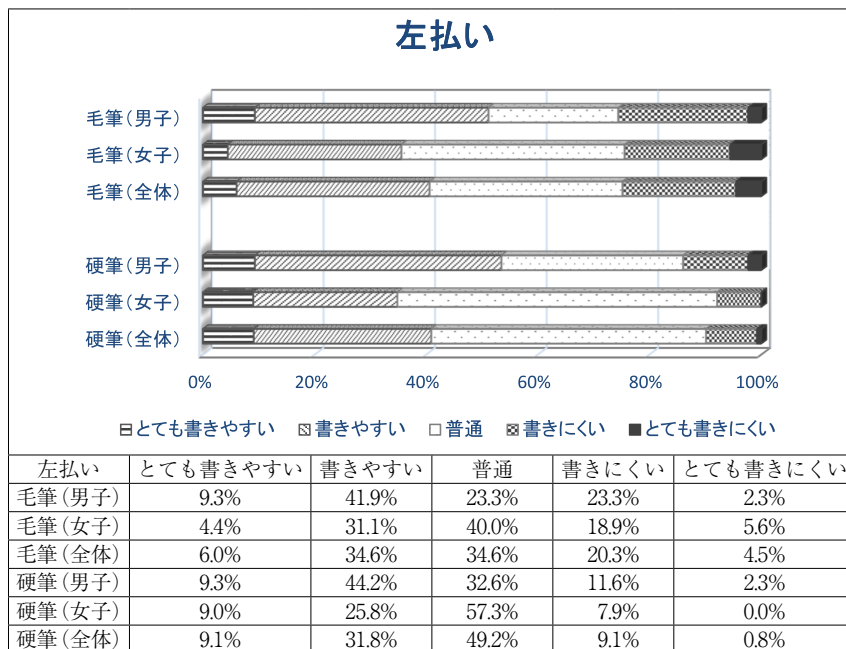
〈硬筆〉

- ・しっかり折らないで書くことが多い。
- ・速く書くときは丸くなることが多い。

といったコメントが多くみられる。ある男子学生のコメントに、毛筆は「折れの部分でしっ

かり筆を止める。曲がりと区別する」、硬筆は「折れであるので曲がりと区別する」とあるように、毛筆では転折部分で一度きちんと止まってから方向を変えることへの意識が働いているようだが、硬筆になると、一旦止まってから方向を変えるという意識が薄れるようである。こうした傾向は他にも見られ、毛筆では、「角がしっかりと出るように気をつけている」が、「折れるさいの筆圧の調整が難しい。太くなりがち」との声がある中、硬筆については「どちらかと言えば曲がりに近くなるかも」とか「普通にしていると、丸い角になってしまいます。意識しながらカクッとさせます」とあるところからしても、毛筆と硬筆での転折部における止めへの意識の軽重の差があるようである。また、毛筆の際に「スピードをつけながらスルスッと折れを書けると気持ちいい」と軽妙な筆致の中にも、転折部でうまく方向を転換して書くことが出来ている者の声もあり、こうした意識をもって硬筆の場合も運筆することが出来るようにしていけば、速く書いても、丸みを帯びた曲線的な折れにならないようになるだろう。そうした、運筆のリズムについての指導を行うことも必要であろう。

エ、左払い



左払いは、他の点画と比すると、横画に次いで書きやすい点画と捉えられているようである。回答者全体の傾向でみると、書きにくさを感じている者は、毛筆では25%弱であり、硬筆では10%弱と毛筆と硬筆での差があまり大きくなく、5段階での評価では、さほど書きにくさを感じていない者が多いように見受けられる。しかし、自由記述を見ると、左払いは、毛筆では左下へと運筆する際に、筆が「自分の方へ来るので書きづらい」が、硬筆では「毛筆のような書きずらさはない」との意見もある。そのほか、自由記述の内容を見ると、次のような点に難しさを感じていることが分かる。

〈毛筆〉

- ・長くはらいすぎないようにしています。毛先のまとまりにも気をつけます。

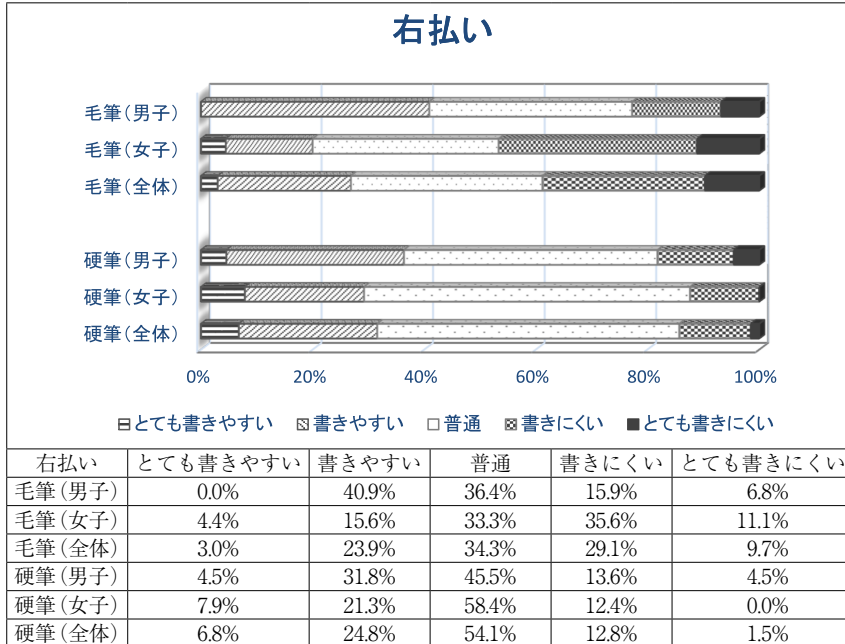
- ・力の抜き方が難しい。ずっと太かったり、急に細くなったりしてしまう。長さのバランスがとりづらい。
- ・だんだん力を抜いていくようにする。

〈硬筆〉

- ・書きやすいのでつい長くなってしまふ。
- ・はらわずに止める傾向がある気がする。
- ・払いだとわかるように書く。止めない。
- ・左払いの後は大体が次につながるの、いちいち払っていくと書きにくい。

全体的には、毛筆・硬筆ともに長さへの意識がもたれているほか、毛筆では筆圧の変化を念頭に置きながら運筆している様子が窺える。しかし、硬筆では、そうした変化が上手くつけられないことが影響して、払いが止めようになってしまう傾向にあるようである。こうした点について、もう少し意見を見てみると、毛筆では「時々払い切れずに伸びてしまう」が硬筆では「時々払い切れずに不自然に切れてしまう」とあったり、別の意見では、毛筆では「あまり払えてないことが多い。とめてしまう」こともあるが、硬筆では「適当にならないように丁寧にはらうこと」を注意しているとの声もあった。これらのコメントから考えると、毛筆・硬筆を問わず、筆圧の変化を上手く調整できないために、適切に払えず、長くなりすぎたり、途中で止まってしまうような書きぶりになってしまうことが生じているようである。

オ、右払い



右払いは、始筆部では弱い筆圧で入筆した後、次第に右下へと筆圧を加えながら運筆し、一旦止まってから、方向を右横へと変えて徐々に払っていくという、筆圧の強弱と進行方向の変化が複雑に絡み合った用筆で書かれる。そのため、毛筆では38.8%の者が、硬筆でも14.3%の者が書きにくさを感じている。硬筆においては、9種の基本点画の中で最も書

きにくさを感じている画である。自由記述の意見を見てみると、

〈毛筆〉

- ・だんだん太くなって最後払いを書くとき、きれいに均等に線を太くしていくのが苦手。
- ・終着点を意識しながら力の強弱をつけることができる。
- ・力の抜き方に気をつけて書こうとしている。
- ・まとめ方、長くなりすぎないように。

〈硬筆〉

- ・「払い」が「止め」っぽくならないよう気をつけている。
- ・毛筆のような細太が出なくて若干悩んでいる。毛筆のように止めてない。
- ・手がおいてある位置にペン先が向かっていくのが書きにくい。

とあり、毛筆・硬筆ともに筆圧の変化をつけて書くことへの意識は持たれているようである。しかし、筆圧と方向の変化を伴う複雑な用筆に戸惑う声が多く見られ、特に、硬筆では、始筆部から右下へ送筆した後に、一度止めることや止めた後の右横へと払っていく時の運筆が上手く出来ないことに困惑が見られるようである。また、毛筆においては、他の点画以上に、男子・女子の性差による感じ方の違いが見られる。男子は22.7%しか書きにくさを感じていないのに対して、女子は46.7%の者が書きにくいと感じている。男子よりも女子の方が20%も多く書きにくいと感じている要因は、今後の研究で明らかにしていきたいと思っているが、女子の意見を見ると、「最後がなかなかきれいにいかない。徐々に太くしていくのが難しい。筆の向きに気をつけている」や「形がうまく決まらない。形がなんとなく大きかったり小さかったりする」、「払いの部分が三角になるように気を付けています」というような、細部まで意識をもって書いていることからの影響があるのではないかと思われる。

カ、右上払い

右上払いは、男女での差がさほど大きくはないため、回答者全体での傾向を見てみると、毛筆で書く際は、32.1%の者が書きにくさを感じているのに対して、硬筆では4.5%の者だけが書きにくいと感じるのに留まっている。自由記述を見ると、

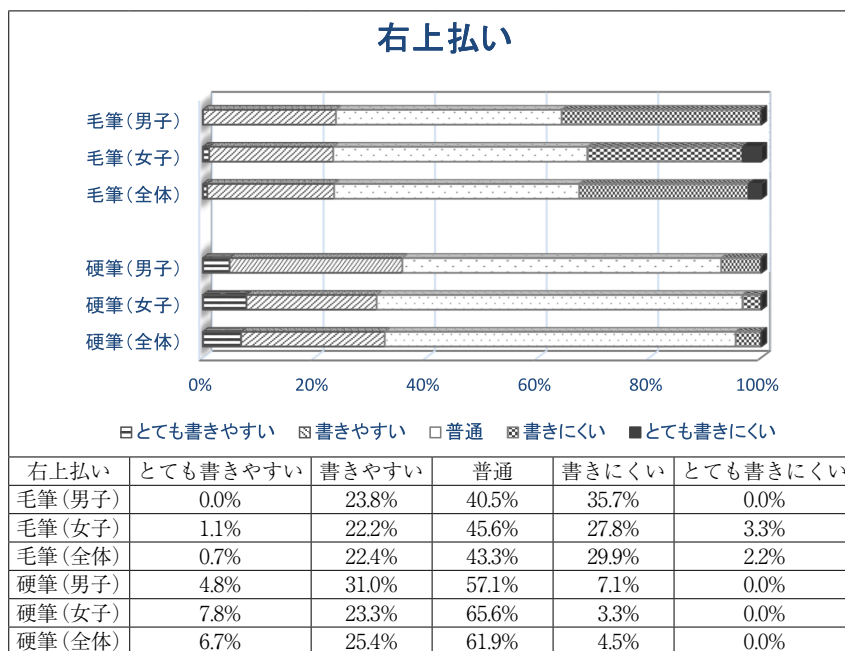
〈毛筆〉

- ・始筆を意識している。
- ・筆の先をそろえて払うのが難しい。
- ・穂先がバラバラになってしまうことが多い。

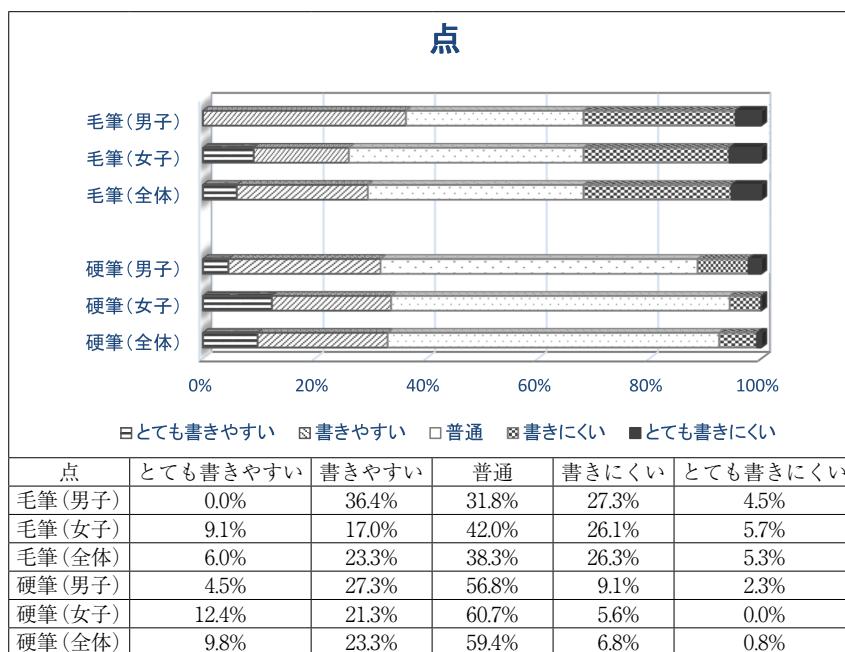
〈硬筆〉

- ・左上に向かって直線を書いているだけなので何とも言えません。
- ・勢いよく払うようにする。

とあり、毛筆では、始筆から右上へと払う際の穂先の動きへ注意を向けているようであるが、「書き始めに力が入る」ことにより「半紙に筆がくっついて、半紙ごとをもっていかれる」ようになるなど、筆が「紙に引っかからないようにする」ことなどに意識が向いている者もあるようである。これに対して、硬筆で意識していることへのコメントは数少なく、あまり細かな意識を持たずに書いているのではと推測することも出来る。



キ、点



点を書く際の意識を見ると、毛筆で書く場合は、男子の方が書きやすいと感じているようだが、硬筆で書く場合は、逆に男子の方が苦手意識を持つものが二倍になるといった傾向が見られる。このように男女での差が多少あるようだが、それほど大きな差ではない。毛筆と硬筆での意識の差について見てみると、下記のような意見がある。

〈毛筆〉

- ・点は他の点画に比べ短いから、筆を上げるタイミングや筆の動かし方が難しい。

- ・筆を置いただけの小さいものにならないようにする。

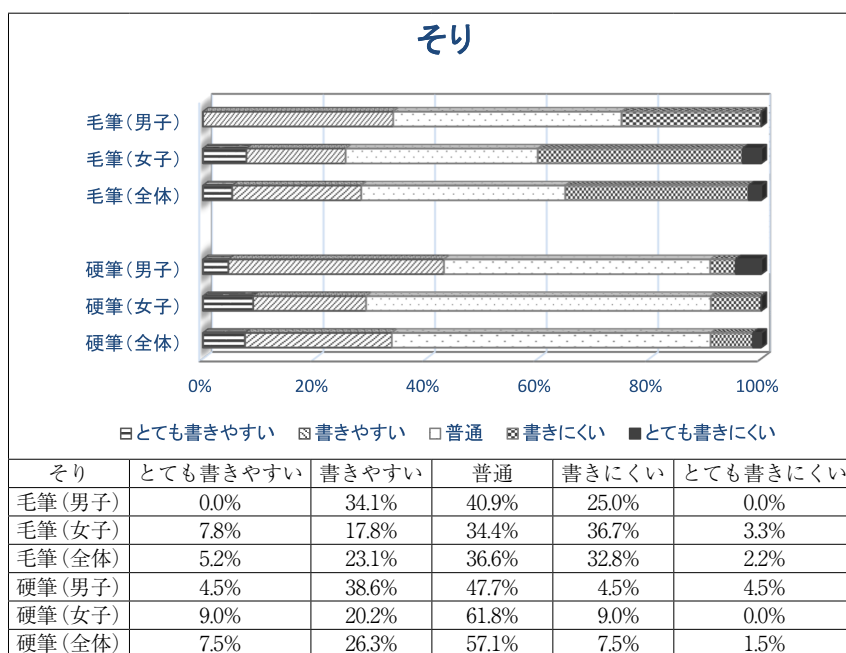
〈硬筆〉

- ・字が流れている時に、点はおろそかにしがちである。
- ・点が伸びてしまうことがある。

点の用筆については、毛筆では「大きさや太さ、角度など、小さいからこそ調整が難しい」と感じているものの、硬筆となるとそういったことへの意識が薄れ「何も考えずに打つことが多い」ようである。

また、毛筆・硬筆のどちらで書く場合でも、サイズの小ささゆえに「長さがどのくらい伸ばしてよいかわからない」といった、文字全体からみたバランスの難しさへの戸惑いを感じていることも分った。

ク、そり



そりは、穂先の位置が始筆部では左側にあったものが、運筆とともに画の中央部を通り、その後上部へと移行し、終筆部のはねでは、また左側を移動する。こうしたそりを書く際の意識を見ると、毛筆で書く場合に書きにくさを感じている者が多く、その傾向は、女子の方が強いようである。硬筆で書く場合は、書きにくいと感じている者の割合は、男女での差はあまりないが、書きやすさを感じている者は、女子より男子の方が約10%程度多いようである。

自由記述へのコメントは、

〈毛筆〉

- ・筆のもっていく方向を気をつける。
- ・そりすぎたり、それなかったりする。
- ・どこまで反って書けばよいか難しい。
- ・はねが難しい。墨がなくなってしまう。

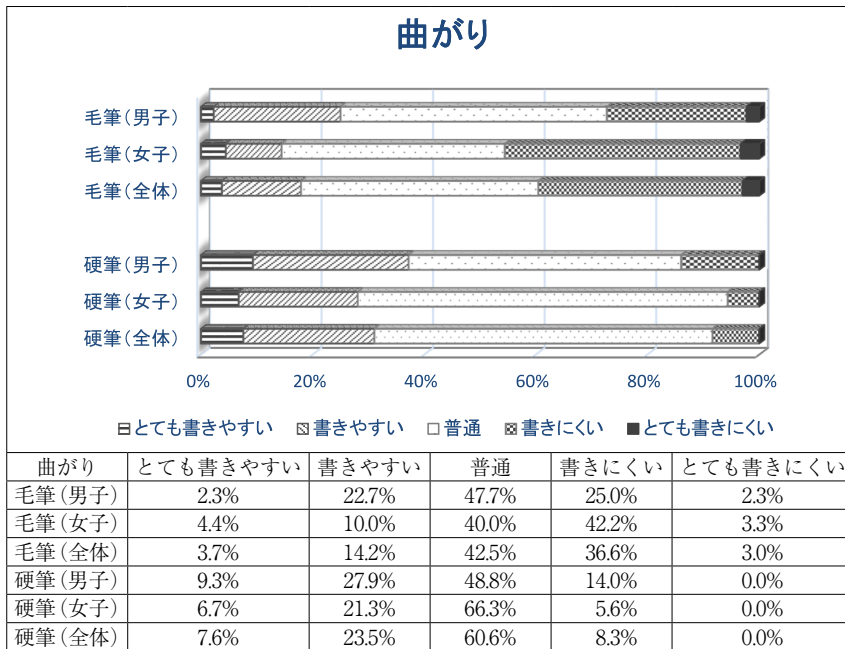
〈硬筆〉

- ・直線になってしまうことが多い。
- ・線がガタガタしてしまう。長くきれいにかけないです。

とあり、毛筆では、そり具合や方向に関するもののほか、終筆部のはねが難しいと感じているようである。そして、一部ではあるが、複雑な「筆先のうごきに注意する」という意識をもって適切な運筆を心掛けている者もあるようである。

また、硬筆で書く際へのコメントでは「ちゃんとそる意識はうすい」ために、直線的になるとの意見や、「やや曲がりに近くなってしまいうため、そりであることを忘れずに書いています」と曲がりとの区別をつけて、「自然なそりができるように意識している」者もあるなどさまざまである。硬筆では、筆記用具を指で動かす際に、掌の方へと引き寄せるような書き方になるため、握り気味になり、余計な力が入りすぎるきらいがある。そのため、筆記用具をスムーズに動かすことが出来ず、線を滑らかに反らせず、直線的になったり、歪んだりということになる場合もあろう。硬筆の学習の際には、筆記用具を自由に動かすための、指の運動も大切になってくるのではないだろうか。

ケ、曲がり



曲がりを書く際の意識としては、毛筆の場合、「縦画」に次いで、2番目に書きにくさを感じているようである。しかし、硬筆では、「右払い、左払い、そり」に続く4番目と書きにくさの感じ方に毛筆と硬筆では違いがある。自由記述からすると、

〈毛筆〉

- ・縦向きから横向きへの移動がむずかしい。
- ・角をつけず、なめらかに方向を変えるのが難しい。
- ・曲がる時に力を少し抜くこと。
- ・力の入れ具合を気をつけている。

〈硬筆〉

- ・カクカク成りすぎないように。
- ・「L」にならないように自然な曲がりに気をつける。

とあり、毛筆・硬筆ともに、縦から横へと方向を変えて曲がる部分の書き方が難しいと捉えられている。曲がりは、そりと同様に、運筆とともに穂先の移動する位置が一定ではない。そして、そり以上に進行方向を変えて曲がる位置の前後での筆圧の変化が伴うものであることから、「筆の毛がぐちゃっとなる」、「力の抜き方が難しいです。上手く細くなったりしません」というような困惑を招き、「どう曲げれば良いのか分からない」という事態を生じることにつながっているようである。

3. 今後の研究と指導法の開発に向けて

今まで見てきた9種の基本点画についての分析を通して分かることは、毛筆で学んだ用筆を硬筆に活かすことがいかに難しいかである。毛筆と硬筆の関連については、長年、書写書道教育において課題となってきた問題であり、本学においても毛筆と硬筆を同じ授業時間内に取り入れ、両者を関連付けた指導に取り組んできている。しかし、今回実施した調査の結果から分かるように、同じ点画であっても、書字の際の感覚が毛筆と硬筆で近いものもあれば、かけ離れたもの、正反対になるようなものもある。そのため、どの点画においても一律に毛筆から硬筆への関連が考えられるほど単純なものではない。例えば、硬筆で右払いや曲がりを書く場合は、毛筆での用筆法として学んだ方向や筆圧の変化に加えて、鉛筆などの筆記用具をスムーズに操るためのより細かな指の動きと腕の動きを上手く連動させていく必要がある。そのため、毛筆にて学んだ点画の書き方を、そのまま単純に硬筆での用筆へとつなげるような指導だけではなく、提腕法と懸腕法といった執筆法や用いる筆記用具の違いから生じる問題も含め、書字状況に即した指導をすることが必要であろう。そうした際に、学習指導要領の改訂でも注目されている「水書き」の毛筆と硬筆の中間的な位置づけを上手く活かして、両者の間をつなげるようにすることも有効であろう。ただし、水書用筆への認識が、毛筆や硬筆とは別物というものになってしまっは、適切な用筆法を身に着けることには結びつけにくい。硬筆・毛筆、さらには水書用筆を関連させた用筆法の学習は、今後の書写指導上の大きな課題となるであろう。

〈注〉本研究は、文部科学省科学研究費助成金(基盤研究C:衣川彰人、課題番号25381251)による助成を受けている。

〈参考文献〉

全国書写書道教育学会編『明解書写教育(増補新訂版)』平成25年4月 萱原書房
文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』平成29年6月

(2017年9月20日受理)